

I アドミッションポリシー

本プログラムは、グローバル・リソース・マネジメント（GRM）の本質を、天然資源や人的資源・社会関連資本を適切かつ公正に管理・運営することにより、共通リソースとしてインフラストラクチャーを持続可能な発展と人々の安寧と平和のために構築・改善していくことと捉え、文理融合型の教育プログラムの提供を通じて、自然科学分野における最適化問題を社会科学側面も含めて鳥瞰し、国家資源・社会インフラが「人間が創出するシステム」であることを理解して現在の困難を解決し、将来に生じうる隘路を事前に察知した対策を講じることのできる人材を養成することを目的とする。そのために、次のような学生を求める。

- ①災害、紛争、貧困など、生存の危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことによって困難を打開する志をもった学生。
- ②論理的思考能力、英語および研究に必要な言語の資料読解力と発信力を有し、科学技術に対する正しい倫理観をもって、社会に貢献することを望む学生。
- ③文理融合の知を基に、「公正」のなんたるかを意識しつつ、宗教間、民族間の共生を志向し、地球的課題としての困難の発生を抑止し、また発生した困難からの復興と発展に取り組むことができる学生。
- ④困難から脱して、発展の途上にある新興国において発展の持続性と格差の縮小に取り組むことで、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく活動に取り組む意欲を持つ学生。

なお、本プログラムは、博士前期・後期課程を一貫する5年間のプログラムとして、博士前期課程1年次終了時点と2年次終了時点で、それぞれ、Preliminary Examination (PE) と Qualifying Examination (QE)を実施する。PEにおいては、本プログラムへの志向性を確認するために、志望理由書、博士前期課程における履修状況、筆記試験（論述）、口頭試問、および研究指導教員からの所見を通じて、本プログラムの履修資格の認定審査を行う。QEにおいては、本プログラムを継続的に履修する能力、知識が備わり、学位論文作成の準備が備わっているかを確認するため、研究計画書をもとにした口頭試問を実施し、本プログラムの継続履修資格の認定審査を行う。